

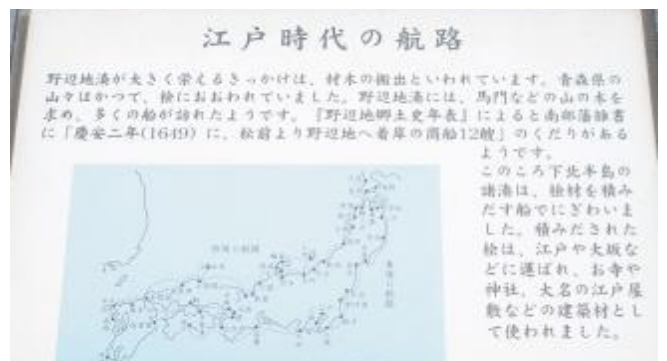
野辺地町と野辺地町漁業協同組合について

野辺地町、野辺地町漁協のホームページから引用

野辺地町は、陸奥湾の最奥部、下北半島の付け根に位置する。古くより北の商港として栄え、その名残が本州最北端の『常夜燈』として今に伝わっている。南に八甲田連峰、町の中心部を流れる野辺地川が陸奥湾に流れ込み、海山の豊かな自然に恵まれている。青森県内有数の海産物の宝庫として知られ、ホタテガイ、トゲクリガニ、カレイやマダイなど多様な旬の味を周年、楽しむことができる。



現存する常夜灯と復元された北前船



特産品のホタテガイとトゲクリガニ

野辺地町漁業協同組合は、正組合員115人、准組合員が87人、合計202人（令和5年度）の野辺地町唯一の漁業協同組合で、6人の職員が所属している。



野辺地町におけるアマモ場づくりの活動

1 播種・移植によるアマモ場づくりの試み

野辺地町漁業協同組合小型船部会の漁業者と八戸工業大学地域産業総合研究所が連携して野辺地町木明地先でのスゲアマモの播種と栄養株の移植試験を試みた。

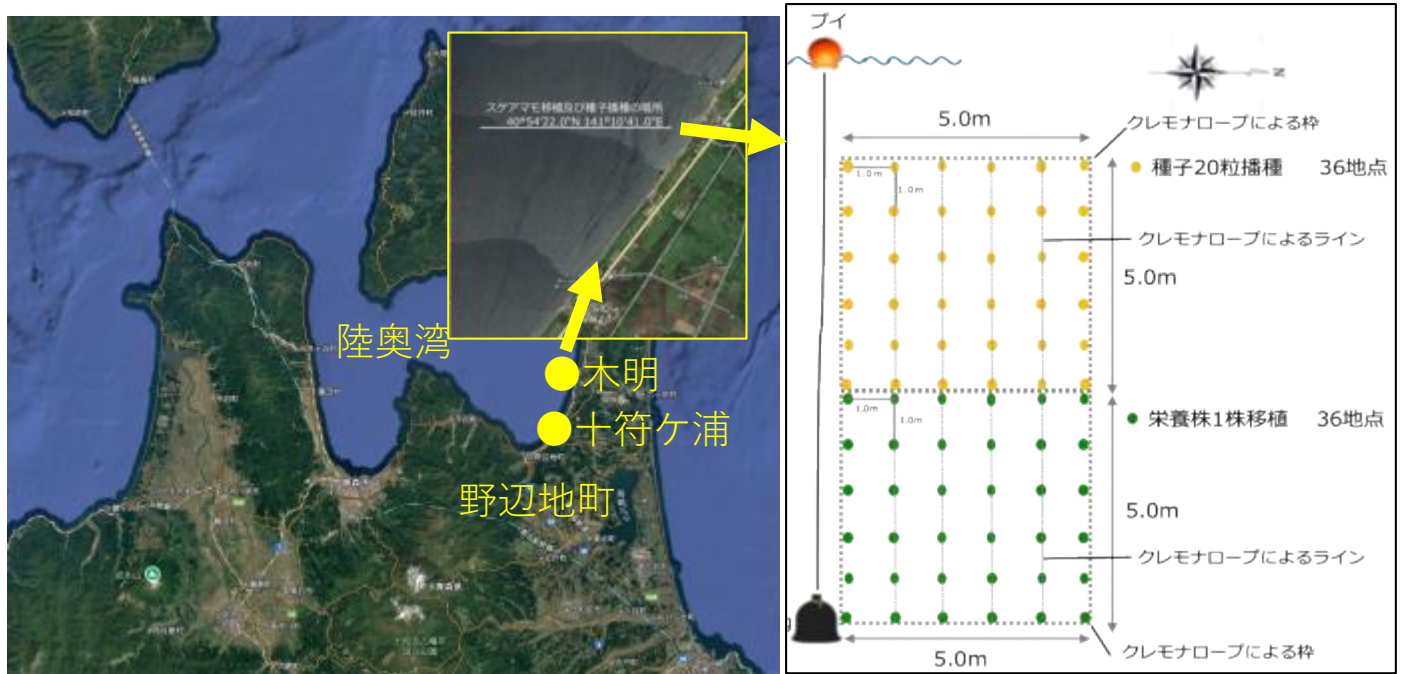


図 移植・播種試験場所の位置

①播種の試験

2022年6月に野辺地町十符ヶ浦地先から花枝を採取し青森県営浅虫水族館の水槽に運び、種子を採取した。

2023年2月1日に野辺地町木明地先に5m四方の試験区を2箇所設定し、その一方に1m間隔で計36地点に1ml容シリンジに20粒ずつ計720粒をスゲアマモ種子を充填し、海底面から深さ3cmになるよう播種した。

2024年3月に発芽状況を観察している。

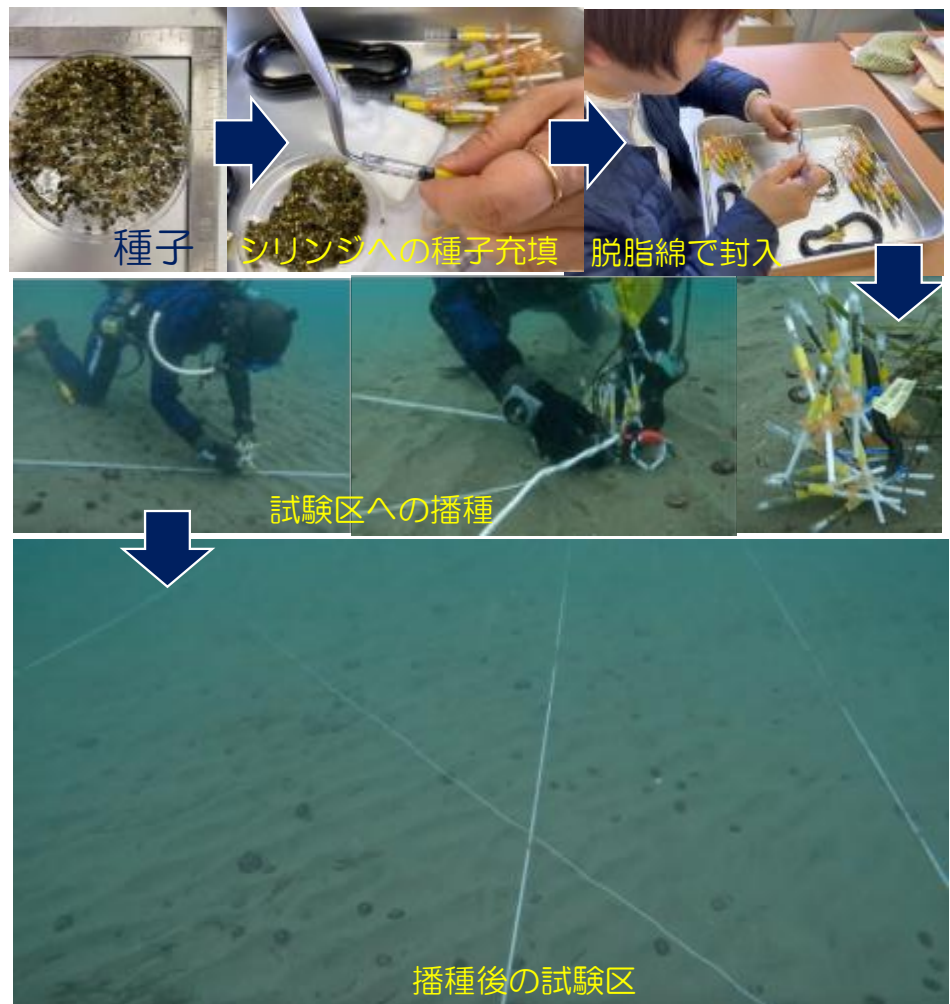


図 スゲアマモ種子の播種

② 栄養株の移植試験

2023年2月1日に野辺地町十符ヶ浦地先から15株のスゲアマモ栄養株を採取し、船上で36株に小分け後に、野辺地町木明地先に設定した5m四方の試験区の海底を1m間隔で地下部で埋設し移植した。

2024年3月に発芽状況を観察した。



図 移植用スゲアマモ栄養株の採取と船上での株分け

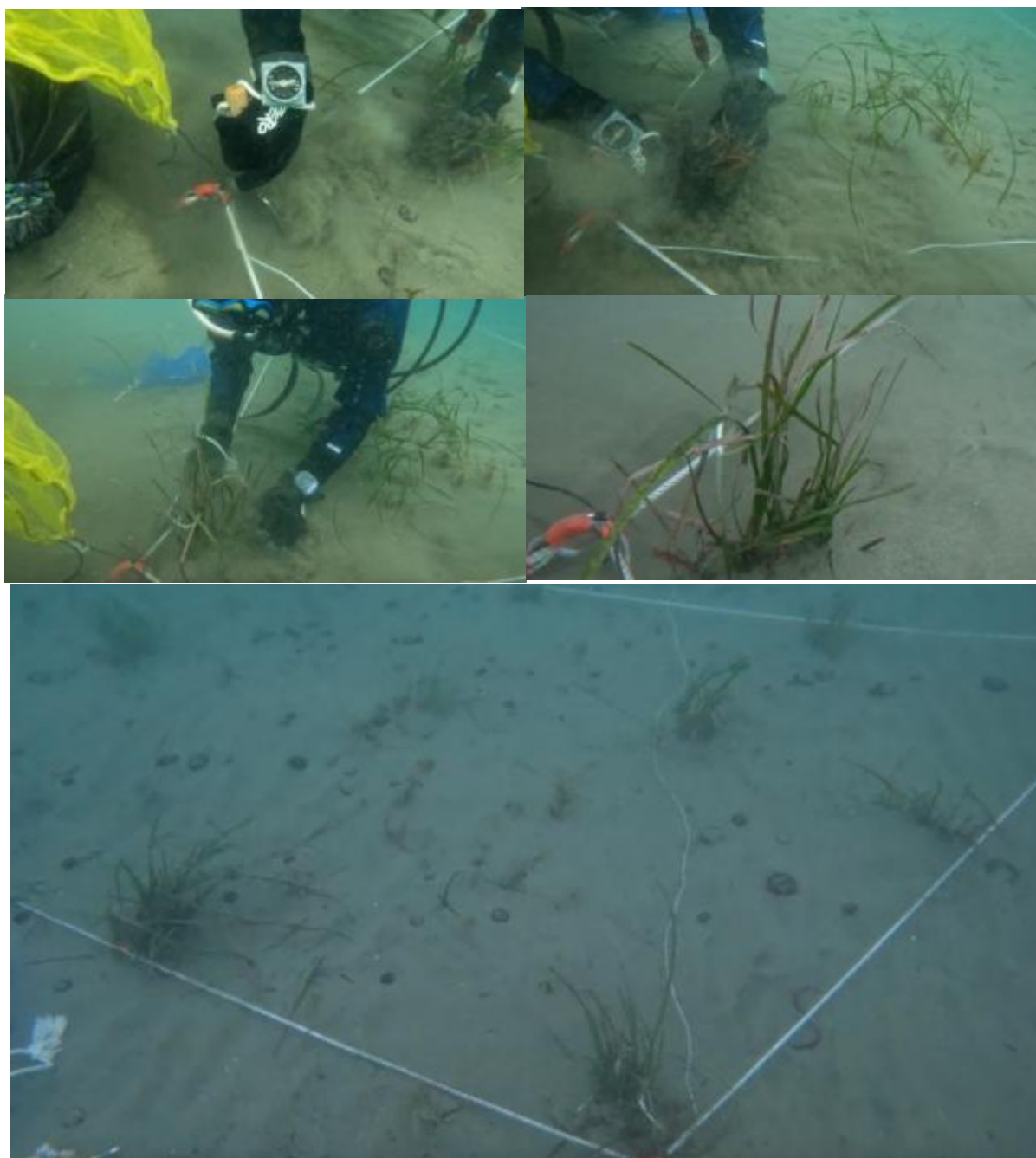


図 スゲアマモ栄養株の移植

2 花枝の採取と陸奥湾沿岸各地への供給

野辺地町漁業協同組合の小型船部会に所属するダイバー漁業者は、毎年6～7月に野辺地町十符ヶ浦海水浴場などからスゲアマモの花枝を採取し、青森県営水族館の協力を得て種子を採取してきた。

採取した種子は、十符ヶ浦地先のほか、陸奥湾沿岸の蓬田村、青森市青森駅前ビーチ、青森市浅虫沿岸などで播種されている。

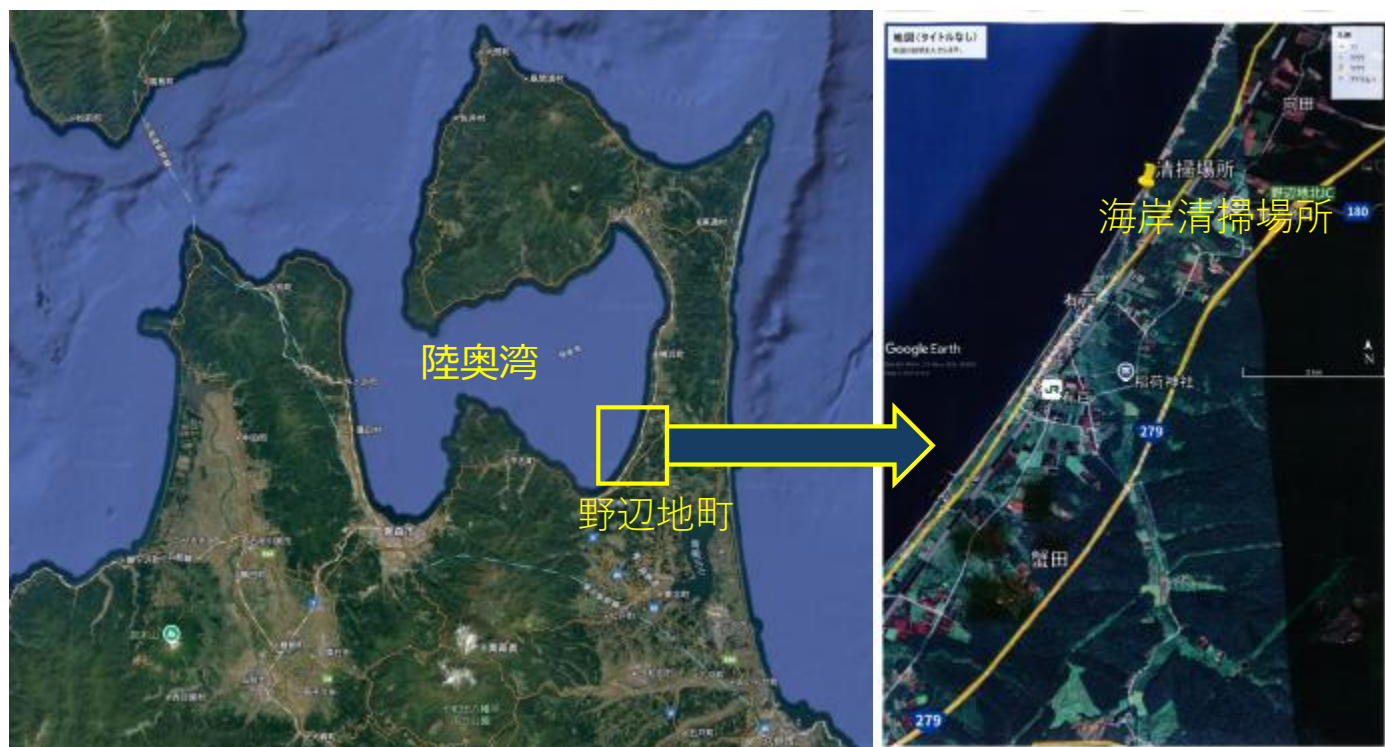


図 2013年7月の野辺地町漁業協同組合の漁業者ダイバーによる野辺地町十符ヶ浦海水浴場からのスゲアマモ花枝の採取風景。この時採取された花枝は青森市内のNPOなどからなる藻場づくり応援協議体に提供された。

3 海岸清掃

令和7年6月5日に野辺地町有戸沿岸で95名の漁業者が参加し、合計1,010kgの海岸漂着ごみを回収し、海岸清掃を行なった。

回収したごみは、野辺地町が収集し町の一般廃棄物最終処分場に搬送した。



清掃前の海岸



漁業者による海岸漂着ごみの回収作業



回収されたごみの収集



清掃後の海岸

